小売石材店レポート

一人でも多くの方にお墓の魅力を伝えていきたい

大阪府河南町　辻元石材

平成21年に修業先の石材店から独立して辻元石材を創業した辻元孝之さん（50歳）は、もともとは電気工事会社の長男として生まれた。その後、様々な紆余曲折を経ながら、現在は国産材を使った国内加工墓石の建立実績を着実に重ねてきている。自身が大好きだと明言するお墓・石塔・仏塔の魅力を一人でも多くの方に伝えていきたいという想いを持つ辻元さんに、現在の取り組みなどについてお話をうかがった。

お墓が大好きと語る辻元孝之さん

高校時代に石材店でアルバイトを経験

――石材業の仕事に就いたきっかけを教えてください。

辻元　私は電気工事の会社を経営する家庭の長男として生まれました。野球に明け暮れていた中学3年生の時に、父親を亡くし、父との約束で、高校でも野球を続けましたが、練習のない日はバイトの日々。そのバイト先の一つとなったのが石材店で、振り返って考えてみると、このことが、その後の人生の大きなターニングポイントになりました。

高校卒業後、ギフト会社の営業担当として就職。ところが、1年半後に、その会社が閉じることとなり、無職になってしまいました。その頃、祖母から「孝之は高校時代に石材店でアルバイトしていたね。おじいちゃんがお墓に入るので、その石材店に字彫りを頼んでほしい」と言われて、久しぶりに親方へ連絡しました。

その時に、親方から「無職ならうちに来ないか」と声をかけていただきました。高校時代のアルバイトでの経験を思い出しながら、大工さんとか左官屋さんとか一つの仕事を極めていく職人さんはかっこいいなと思っていたこともあり、就職を決意。ここから自分の石屋人生が始まりました。

37歳の時に独立

――独立・創業したのが平成21年と聞きました。

辻元　親方のもとで二十歳から施工の仕事を中心に修業を続け、37歳の時に軽トラと道具をいただいて独立することになりました。はじめの頃は、仕事はまったく無く、別の石材店さんの現場応援の仕事で食い繋がせていただく状況が続きました。

小売りの仕事もやってみたいなと思っていた時に、つながりのある石屋さんからお墓の勉強会（お墓100年プロジェクト・十人の会）へ誘っていただきました。それまでも、お墓について、独学では勉強していましたが、その勉強会はレベルがまったく違いました。

故・小畠宏允先生に教えていただく内容はもちろん、参加されている石屋さんたちの熱意や、それぞれの取り組み内容などをお聞かせいただくこともあり、すべてが刺激になるものばかりでした。

その後、地元の知り合いから、お墓づくりのご依頼をいただき、そこから小売りの仕事がスタートすることになりました。はじめの頃は石の話しかできなかったのですが、勉強会のおかげで、石塔や仏塔のことも少しずつ話せるようになり、亡くなられた方に対して、心からの弔いの気持ちを込めたお墓づくりに、やりがいを見出すようになっていきました。

今年5月に開眼法要した叩き仕上げの五輪塔（犬島石製）の隣に立つお施主の松村健司さんと松村純子さん

純国産墓石を積極的に提案

――ここ数年は国産材を使った国内加工墓石の建立割合が高くなっているそうですね。

辻元　石塔・仏塔づくりに見合うものとして、出来る限り、産地の職人さんに心を込めて制作していただく国産材を使った国内加工の純国産墓石を提案しています。この点については、石塔・仏塔づくりに詳しい庵治産地の加工メーカーさんから教えていただく知識も大いに役立っています。

実際にお施主さんを産地へお連れすることも多く、その際に、工場や工場などをご覧いただき、お墓をつくる工程を体感していただきながら、お墓を建てる意味合いなども理解していただく。そのようなことを実践していくことで、最近では、当社で手掛けるほとんどの墓石が国産材を使った国内加工のものになってきています。

庵治産地で犬島石の原石を確認するお施主の松村健司さん

お施主に喜ばれるお墓づくりを追求

辻元　今年5月に岡山県産「犬島石」で制作した叩き仕上げの五輪塔を建立させていただきました。

そのお施主様は地元のスポーツジムで知り合った方で、石がめちゃくちゃ好きな方だったんです。自分が石屋だと知り、イサム・ノグチの彫刻や安藤忠雄が設計した建築物のことなどで話が盛り上がり、お墓の話題になることもありました。

その後、その方の旦那様がお亡くなりになられ、お墓づくりのご依頼をいただきました。お施主様は、石好きの会話をきっかけにお渡しした石塔の本をよく読んでいて、「叩きの五輪塔がいい」と決めていらっしゃいました。

五輪塔の形は、庵治産地の加工メーカーさんからいくつかの提案をいただき、その中から決めていただきました。また、使用する石に関しては、私の好きな「犬島石」を提案させていただいたところ、お施主様にも気に入っていただき、五輪塔本体を白手、巻き石をサビ系の犬島石で制作することが決まりました。

昨年秋にお施主様と一緒に庵治産地へ行き、原石と加工工場を見ていただきました。現地を見ていただくことで、お施主様もお墓づくりへの想い入れや愛着が強くなられたようで、とても感動されている様子が印象的でもありました。

今年5月に開眼法要を行ない、その際に、お施主様から「ずっと見ていられるお墓です」と大変喜んでいただくことができました。お施主様は今も毎日のようにお墓参りへ行かれているそうで、このようなお話を聞く度に、石屋の仕事の素晴らしさを実感しています。

犬島石で制作した五輪塔の施工風景

辻元石材ではHPを通した情報発信にも力を注いでいる

自身が登場してお墓のことなどを解説する動画も複数アップされている

――今後の目標をお聞かせください。

辻元　当社では4年ほど前からホームページを通した情報発信にも力を入れており、このところネットからの問い合わせも増えてきています。先行き不透明な状況が続いていますが、これからもブログや動画を継続的に更新するようにし、一人でも多くの方と接点を持てるように努力すること。そして、その接点を通して、自分が大好きなお墓・石塔・仏塔のことを一人でも多くの方に伝えていけるように努力していきたいと思っています。

◆辻元石材
大阪府南河内郡河南町寛弘寺763―1
TEL 0721―93―8885